（別紙６）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成20年6月12日

【評価実施概要】

事業所番号	０９７２７００５０４		
法人名	社会福祉法人尚生会		
事業所名	指定認知症高齢者グループホーム　グリーンハウスとちぎ		
所在地	栃木県芳賀郡茂木町茂木６３－２８ （電　話）０２８５－６４－３２７７		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草１－１０－６		
訪問調査日	平成20年5月20日	評価確定日	平成20年6月12日

【情報提供票より】（平成20年4月1日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成15年12月1日	
ユニット数	２ ユニット	利用定員数計　18 人
職員数	７ 人 ７ 人	常勤6人,非常勤1人,常勤換算6.5人 常勤6人,非常勤1人,常勤換算5.7人

（２）建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	9,100円	その他の経費（月額）	・生活関連費（水光熱費、日用品費）―30,000円 ・理美容代、おむつ代―実費 ・行事参加費、クラブ材料費、複写物―実費	
敷　　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	―
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり　円			

（４）利用者の概要（平成20年4月1日現在　）

利用者人数		18 名	男性　3 名	女性	15 名
要介護１		4 名	要介護２		4 名
要介護３		7 名	要介護４		2 名
要介護５		1 名	要支援２		名
年齢	平均	83.7 歳	最低	72 歳	最高　96 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	石本病院、今井医院、県西総合病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、真岡鐵道の茂木駅から比較的近く、幹線道路から一本奥まった場所にある。訪問介護、訪問入浴、居宅介護支援事業所と併設されている。通院に同行したり、町の理美容院や歯科医院に出掛けたり、入居者の希望する場所への個別の外出をしたりと、ユニット間で職員の協力をしながら柔軟な支援に努めている。職員がホーム全体の様子が分かるように、朝の申し送りは2ユニット合同で行っている。管理層はじめ、職員のチームワークがよく、職員それぞれの得意なこと（ミシン、花など）を運営に活かせることが、それぞれの職員のやりがいにつながっている。日常的に地域に出かけていく中で、管理者は、認知症の理解を深める啓発や地域の方からの相談に乗りやすい体制づくりなども考えており、更なる質の向上を目指しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価のあとにホーム独自の理念を職員全員で考えて作成するなど具体的な改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は、職員に意見を聞いたり、日頃の職員からの意見を参考にそれぞれのユニットのリーダーがまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	入居者家族の代表、民生委員、町職員に参加してもらい、ホームの運営状況を報告し、助言をもらっている。昨年度は、8月、11月に開催している。会議の内容は職員にも伝達している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族の訪問の際に報告するほか、必要に応じて電話連絡したり、居室担当者の作成によるお便りを写真同封で毎月送付している。預かり金は出納帳で管理し、利用料請求時にレシートと明細を同封して報告している。年2回発行される法人広報誌にもホームのコーナーがある。職員の異動があった時は家族の訪問の際などに紹介している。ホームページも作成している。苦情があった時には、町に報告し、職員会議でも報告し解決に努めている。家族の訪問の際などに日頃の状況を報告しながら、意見や要望をうかがうようにしている。意見や要望があった時には、申し送りノートで職員間の情報共有をしている。家族と接する機会を増やすために、食事会への参加を呼びかけたりもしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に加入し、回覧板も回ってくる。地域の祭りに参加したり、保育園や中学校と交流したり、ボランティアを受け入れたりしている。散歩や買い物の途中で地域の方と挨拶を交わしたり、地域の理美容院を利用したり、近所の方から花をいただいてホームに飾ったりと、日常的なつきあいもしている。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心と責任をキーワードとした法人理念のほか、『生活心得』として「お年寄りもご家族も職員も皆が笑顔で楽しむホーム」を職員全員で考え、ホームの大切にすべきことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	前回の外部評価のあとに、職員全員でホームの理念を考え、事務所に掲示し、毎月開催している職員会議などで折にふれて確認しながら共有に努めている。些細なことでも、毎日、入居者の笑顔が見られるよう実践している。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板も回ってくる。地域の祭りに参加したり、保育園や中学校と交流したり、ボランティアを受け入れたりしている。散歩や買い物の途中で地域の方と挨拶を交わしたり、地域の理美容院を利用したり、近所の方から花をいただいてホームに飾ったりと、日常的なつきあいもしている。	○	地域の中に出掛けていく中で、管理者は、認知症の理解を深める啓発や地域の方からの相談に乗りやすい体制づくりなども考えているので、更なる取り組みの充実にも期待したい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価のあとにホーム独自の理念を職員全員で考えて作成するなど具体的な改善に努めている。今回の自己評価は、職員に意見を聞いたり、日頃の職員からの意見を参考にそれぞれのユニットのリーダーがまとめた。	○	職員それぞれの振り返りや職員ごとの感じ方・考え方の違いを踏まえて運営の参考にしていくという意味でも、全職員で自己評価に取り組むことに期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族の代表、民生委員、町職員に参加してもらい、ホームの運営状況を報告し、助言をもらっている。昨年度は、8月、11月に開催している。会議の内容は職員にも伝達している。	○	会議の定期的な開催を進めていくとともに、参加者構成なども工夫しながら、地域の理解と支援を受けるための貴重な機会として運営推進会議の場を更に有効に活かしていくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	郡内の相互利用が可能になっていることから、町外の方から入居申し込みがあったときなど相談したり、調整したりもしている。事業所長、管理者、計画作成担当者が窓口となって報告、相談をしたり、また町の職員が事業所に書類を持ってきてくれたり、と連携を図りながら質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の際に報告するほか、必要に応じて電話連絡したり、居室担当者の作成によるお便りを写真同封で毎月送付している。預かり金は出納帳で管理し、利用料請求時にレシートと明細を同封して報告している。年2回発行される法人広報誌にもホームのコーナーがある。職員の異動があった時は家族の訪問の際などに紹介している。ホームページも作成している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があった時には、町に報告し、職員会議でも報告し解決に努めている。家族の訪問の際などに日頃の状況を報告しながら、意見や要望をうかがうようにしている。意見や要望があった時には、申し送りノートで職員間の情報共有をしている。家族と接する機会を増やすために、食事会への参加を呼びかけたりもしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や離職があって職員が変わった時には、引き継ぎをし、また、1か月程度先輩職員がつくなど、まわりの職員がフォローしながら入居者に影響が出ないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、1年目、2年目など段階に応じた研修体系がある。その他に年2回の法人研修、毎月開催するホーム勉強会がある。外部研修の案内があった時は事業所長が参加すべき人を選んだり、希望を募ったりして参加し、参加後はホーム内で報告をしている。法人として奨学金制度や資格取得支援制度がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。同法人で同町内にある小規模多機能型居宅介護事業所とは、餅つきなどを一緒に行ったり、お茶のみに行き来したりと交流をしている。	○	他のグループホームと相互訪問したり、勉強会をしたりといったネットワークづくりに取り組んでいくことにも期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	正式な入居決定前に、本人に見学に来てもらったり、宿泊も含めた利用体験などをしている。入居後2週間程度は24時間モニタリングなどを通して本人の理解に努め、関わり方などについて職員間で申し送りをするなど、ホームの生活に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみやごみ捨てなど、入居者一人ひとりが活躍できる場面を見つけて職員と一緒に行ったりしている。入居者に対して押し付けのない雰囲気がつくられている。入居者同士の助け合いも見られ、職員も入居者に支えられている、という声が聞かれた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で希望や要望を聞きとるよう努め、難しい時は家族の協力を得たりして本人本位の生活を支えられるように努めている。	○	アセスメントについて、家族にも協力を得ながら整理をしている。本人に関わる情報の整理をしながら、今後も一人ひとりの希望や願いにそった支援を追求していくことに期待したい。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の訪問の際に入居者本人も加わったりしながらサービス担当者会議を開催し、本人、家族の意向にそった介護計画の作成に努めている。職員会議の前半をカンファレンスの時間にあて、また、生活記録から職員の気づきなどを反映している。医師からの指示・助言などがある時には、それを踏まえて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標6か月、短期目標3か月として、定期的な介護計画の見直しをしている。毎月開催する職員会議の前半をカンファレンスの時間にあてている。入院した場合など、本人の状態に変化があった時は、その都度見直しをしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2ユニット合同の申し送りもしながら、ユニット間で連携して、通院や買い物、個別の外出など、柔軟な対応に努めている。訪問入浴介護事業所が併設されており、ホームの浴槽で入浴が難しい時には、空き時間に利用させてもらったりもしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関は2週間に1回往診してくれる体制になっており、変更する方が多い。協力医療機関の受診は、ほとんど職員が同行している。その他の医療機関での受診は家族が対応している。町内の医療機関が減っているという現状もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	食事が難しくなった場合、入浴が困難になった場合は、家族と相談して他の施設等への転居を相談している。職員間でも、終末期のホームでの対応は困難である、と話し合っている。一方で介助の度合いが高い場合でも支援している現状も見られた。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1)一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の失敗があった時などは居室で着替えるようにするなどプライドに配慮した支援を心掛けている。個人記録は事務室の鍵のかかる書庫に保管している。居室前に表札を出しているが、本人が片づけた場合にはそのままにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、食事なども一人ひとりのペースでとれるように配慮したり、「今日はどうします」等、本人の気持ちを大切にした支援に努めている。ケーキと饅頭など選ぶ場面づくりにも配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできることに配慮しつつ、皮むきなどの下ごしらえや後片付けを一緒にしている。ふき、たけのこ等の旬のものも取り入れている。職員も必要に応じて入居者のサポートをしながら、一緒に同じものを食べている。食材は毎日、入居者と一緒に買い物に出掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14:00～17:00位の時間帯で一日おきには入浴できるよう支援している。毎日入浴する方もいる。安全のために手すりを加えた。仲の良い方同士で入浴する方もおり、ゆず湯なども取り入れている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、掃除、テーブル拭き等の役割ごと、生け花・書道・創作・音楽クラブ、玄関先での輪投げやボーリング、等々の機会をつくっている。晩酌を楽しまれる方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の食材の買い物、散歩、玄関先での輪投げやボーリング等、外出の機会を作っている。花見など季節ごとの行事的外出もしている。町の理美容室を利用したり、個別の要望にそった外出支援にも務めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーチャイムがあり、また、職員の見守りのもとで日中は玄関に鍵をかけていない。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応マニュアルがあり、年2回、避難訓練を実施している。夜間を想定しての訓練も行っている。地域の方との連携体制の構築については、民生委員とは相談しているが、具体化はしていない。	○	いざという時のために、近隣の方々との具体的なネットワークを構築しておくことを期待したい。また、備蓄や非常時の持ち出し物の検討にも期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、法人の管理栄養士が作成したものを参考にして立てている。給食日誌をつけており、食べた物、提供形態、検食者の感想などを記録している。食事摂取量を記録し、水分摂取量は必要に応じて記録している。月1回、体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	近所の方からもらった花を飾ったり、入居者の作品（習字など）を飾っている。訪問時にはなかったが、冬場はコタツを置いている。日差しはブラインドで調整し、テレビの音なども大きすぎないように調節している。窓の開け閉めで換気したり、消臭のために炭をおいたりしており、気になるにおいや空気のよどみ等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みがそれほど多くない方もいるが、本人が過ごしやすい空間となるよう、家具等の持ち込みを家族に働きかけている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。